

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100273		
法人名	株式会社 サンウェルズ		
事業所名	グループホーム 太陽のプリズム窪		
所在地	石川県金沢市窪6丁目16番地		
自己評価作成日	令和1年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル		
所在地	石川県金沢市千木町129番地		
訪問調査日	令和1年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンウェルズの経営理念である「自らが輝き、人を元気にする」を大切に、利用者様を元気にする前にまずはスタッフが元気になることを目標としている。毎日の元気朝礼では日替わりで朝礼担当を決めて、朝礼担当者はみんなの前で仕事への思い、取組、プライベートでの出来事などをスピーチしている。こんな取組はひとりひとりの自信につながり、自然とチームの輪へとつながっていると確信している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この土地にグループホームを作り、地域の方々の和に参加できるように努め、10年の時が流れた。現在では地域住民の中の一家族として地域に溶け込んだ生活を続けている。まだまだやりたいことは多いが、毎年一つずつ思いを達成するように頑張っている。また、法人の理念に近づけるべく職員を育て、入居者の生活の安定のため、管理者と職員が一丸となって研鑽している。職員はささやかな感謝の想いを「ありがとうカード」に託して届け、お互いの尊敬の念につなげている。このような試みから職員間の連携は素晴らしく、ホームで生活する入居者の方々の大きな支えとなっている様子を見ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて会社理念の唱和、施設理念の確認をおこなっている。常にお客様あつての施設であることをスタッフに周知している。働く環境がよければ自然と良いケアができると意識し努めている。	「自らが輝き、人を元気にする」という理念に沿って日々の業務を行っている。毎日の朝礼で唱和し、自分たちが輝いて業務に当たれるよう、管理者は職員一人一人の様子を把握するように目を配っている。近年では環境整備に力を入れており、職員全員が参加して目標達成ができるように頑張っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、町内総会への参加、地域文化祭への参加、他法人の体操教室への参加などを通じて地域とのつながりを出来る限りとぎらすことのないように工夫している。	開所してから10年が経過し、地域の一家庭として周囲の方々にも受け入れていただけていると感じている。地域で開催する行事の案内についても連絡をもらい、入居者と職員で参加させてもらい、楽しませていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自社推進会議、他者推進会議において認知症の方への取組、ケアについて報告させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、ご家族様、民生委員様、介護相談員様、金沢市役所様、地域包括支援センター様、他法人施設管理者様の意見をしっかり汲み取り、改善できる部分はしっかり改善するよう努力している。	2か月に1回、年6回開催している。ご家族や民生委員、行政の方々と一緒に利用者も参加している。平日の日中の開催であり、参加しにくいご家族も多いが、1年交代の当番制にしており、当番の年には積極的に協力してくれる。近年では災害が多いので、災害の時の対策について話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	金沢市役所様、地域包括支援センター様、民生委員様、介護相談員様など推進会議に参加していただいている方々に日頃の取組むを発信させていただき、理解、協力いただけるように努力している。	必要時には相談し、適切な意見をいただいている。地域包括支援センターからは入居の相談を受けることもある。ホームの情報を提供し、速やかな入居につながるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	こじんまりした施設であるが出来る限りの自由空間確保に努めている。最近の利用者様は帰宅願望が強く、離棟のリスクはおおいにあるが、玄関の施錠もバランスを考えて出来る限り解放された環境維持に努めている。	センサーマットの対応にもご家族の理解をもらい、転倒防止対策として活用している。スピーチロックには意識して対応しているが、うっかり発してしまうこともあり、個別に注意・指導を行っている。ご家族からも言葉遣いについての意見をいただくこともあり、職員教育を行う等、より良い対応ができるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待研修などで学んだことを施設研修においてスタッフに落とし込んでいく。疑いがある場合は、徹底した本人への聴き取り調査、利用者様への聴き取り、再発防止について徹底した話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修への参加を行い、必要であればスタッフの勉強会、ミーティングなどで内容の落とし込みを行っている。後見人制度の注意点についても伝えさせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約時には十分な時間をとらせていただいている。説明もしっかりさせていただき、双方の理解、納得において事をすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様家族様来所時にはしっかりコミュニケーションをとっている。施設にはご意見箱を設け、本社より定期的に家族様のもとに顧客満足度調査表を届け、その意見から改善に向けて、取り組んでいる。	ご家族とは直接話をする機会を多く持ち、小さな気づきでもその都度お話をさせていただいている。1年に1回、ご家族にアンケートを行っている。言葉遣いについて気にされるご家族がおり、いただいた意見に対しては改善できるように職員で検討を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者とスタッフが個人面談を実施している。施設内でサポーター者を選出して新入社員の育成担当とし、常に風通しのよい職場を目指している。スタッフ意見箱も設けている。	職員と管理者は3か月に1回の面談を持つようにしているが、変化があった時にはその都度話を聞き、思いを聞くようにしている。ホーム内の行事は職員が中心となって毎月の予定を作成し、ご利用者と職員が協力して実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サンウェルズとして人事考課制度を模索中である。社員全員が同じ条件のもと頑張りにおうじた評価を受ける仕組みを構築中である。各施設管理者は会議において施設状況を代表者、エリア部長に都度報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の取組としてケアマイスター制度を設けている。社員ひとりひとりのヒューマンスキル、テクニカルスキルの向上を目指している。スタッフの力量も考えての施設間異動も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	互いの運営推進会議に参加させていただき意見交換の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、気持ちを確認するためにも時間をかけてコミュニケーションを実施している。その中で関係性を確保しながら、本人にとってもっとも重要である課題を取り上げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのコミュニケーションを利用者様同様、大切にしている。出来る限り沢山の会話を心がけ、小さな意見、要望を汲み取っていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位をつけて対応させていただいている。利用者様、家族様のヒアリングには重要かつ慎重に対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に家族である気持ちをもって関係を築いている。洗濯たたみ、フロア掃除、茶碗洗い、調理などは互いに協力しあって事を進めるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族様の面会時間の大切さを認識している。急な面会依頼にも協力させていただいている。外出、外泊、受診、面会に特に制限は設けていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所しやすいように常に声かけしている。美容院やかかりつけ医など、これまでと変わらない利用も継続できるよう支援している。	誰でも来所できるホームであるように職員全員で努力している。お越しいただいた方がゆっくりと過ごしていただける環境を整えている。入居者の中にはお友達が遊びに来る人や一緒に食事に出かける人など様々であるが、今までの関係性が崩れないようにそっと支援をさせていただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を構築できるように常にスタッフは意識している。レクリエーションなどは極力利用者様全員でおこなうことを心がけ、常にチームの輪が出来やすいよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援はいつでも出来る体制となっている。以前には一度退所された家族様と連絡を取り合って再入所していただいたケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、利用者様ひとりひとりのコミュニケーションを重視している。淡白すぎず、しつこすぎずを心がけ、汲み取った内容を全体モニタリングにて精査し、本人本位に検討している。	職員は入居者の思いに沿うような対応を行うように指導している。話を聞いてほしいような目を向ける入居者にはそのタイミングで話を聞き、ご本人に寄り添っている。教えていただいた入居者個々の声は具現化できるように話し合いを行い、思いに添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との日常会話の中での情報収集やご家族様からの情報提供協力をお願いをしている。常にその方らしい生活をしてもらえるよう努力を怠らない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月1回必ず全体モニタリングを実施している。2ヶ月に1回全体会議も行い利用者様ひとりひとりのケアの再確認を行っている。話し合い後は記録に残し、誰もが統一したケアができるよう徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様の意見を第一に考えている。プラスしてスタッフ、看護師、かかりつけドクターの意見を考慮しながら、現状に即した介護計画書を作成している。	モニタリングは月に1回のペースで行っている。ご家族の来所時には日々の様子やモニタリングの結果を報告し、ご本人やご家族の意向や思いをうかがい、思いに沿った対応ができるように話し合いを行っている。ケアプランは介護支援専門員が中心に作成するが、職員全体の意見を聴き取り、プランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	役割分担しながらの記録徹底をおこなっている。日々の様子、三測表、連絡帳を効果的に使用している。改善点がみつければ、スタッフとの話し合いのもとできる限り迅速な対応に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時代、その時代の流れにそくしたプラン作成に心がけている。今の時代にマッチしたものの、最優先に必要なものを大切に、柔軟な対応で取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化祭、他法人体操教室などの行事に積極的に参加させていただいている。近隣の地域交番にも相談させていただくこともあり、安全面を確保しながら本人の力を少しでも発揮できるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、家族様にかかりつけ医師の説明をさせていただいている。3クリニックの特徴を説明させていただき、常に家族様判断のもとにかかりつけ医師をつけさせていただいている。	以前からのかかりつけ医を継続することもできるが、ホームが関わっている3名の医師の先生から選ぶことも可能である。専門医の受診時にはご家族が同行するが、必要時には職員も一緒に出向き、スムーズな受診ができるよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは利用者様のどんな細かな変化でも管理者、リーダー、ケアマネージャー、看護師に報告するよう周知している。ナースの指示の適切な対応、処置によって利用者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様入院時には、定期的に入院先病院に電話連絡、状態確認の訪問をさせていただいている。ソーシャルワーカーとの情報交換、カンファレンスには確実に参加させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、入所途中機関で家族様に終末期について施設として出来ること、出来ないことを明確にお伝えさせていただき、ターミナルの経験を生かしながら医療の部分が強くないよう、グループホームとしての役割をしっかりとらせるよう努めている。	入居の際に看取りができる事を伝えている。現在はターミナルの方はいないが、今までも看取りを希望し、対応させていただいたこともある。ご家族には時期が来たら医師からの報告をお伝えし、今後の対応について検討して頂くことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防署管轄の消防訓練時、緊急対応の指導を受けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	管理者、リーダー、ケアマネージャーの電話窓口は24時間、常にオープンとなっている。スタッフの協力を必要とされる場合、社内緊急連絡網が作成されていて、施設から近い順に連絡体制をとっている。	トラブル時に職員全員が対応できるように研修を行っている。今までに離脱され、職員で探した経験を持っているが、その時の反省としてご利用者やご家族の了解を得た上で写真を撮るようになっている。トラブル時にはすぐに連絡網を活用し、協力できる体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	クリニック3社との24時間往診対応提携になっている。場合によっては訪問看護の利用もおこなっている。近隣グループホームとの連携も構築されている。	法人内にたくさんの施設、職員がいるので、いつでも連携ができ、情報共有も密に行っている。地域の方々や近隣のグループホーム等の同業種の方たちとは連携を行っており、何かの場合には協力いただける関係性ができている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	1ユニットに対して1名の夜勤者の人員配置となっており、緊急時には常に2人に対応できる状態である。緊急時のために施設から近隣のスタッフ順の緊急連絡簿が作成されている。管理者、リーダー、ケアマネージャーは常に迅速な対応が出来るよう意識付けしている。	2ユニットで2名の職員が夜勤を行っている。事故などが発生した際には近隣に住む職員が来てくれるが、5分圏内に住む職員が複数名おり、すぐに来てもらえる。夜勤者も安心して業務に当たることができる。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設、民生委員、市役所、地域包括支援センターなどが集まる運営推進会議などは話し合いの場となっている。避難場所、避難方法などの再確認を定期的におこなっている。	消防訓練は年に2回実施しており、夜間帯想定訓練をすることが多い。いろいろな災害が増えていることもあり、地域の方々の協力をより一層得ていきたいと考えている。火災以外の訓練も必要であり、職員を交えて検討を行っている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	毎月1回の消防避難訓練の実施と年2回の消防署管轄の消防非難訓練を実施している。備蓄品の備えも定期的に確認している。	備蓄品は外部の物置に保管しており、水・米・乾パンのような食料品の他、ガス・毛布・防災頭巾を準備している。入居者の情報は1冊のファイルにまとめ、すぐに持ちだせるように整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マンネリ化による不適切な言葉かけはたまに見受けられる。全体モニタリングや全体会議などで現在の状況を再確認し、また個人面談などで尊厳の重要性を伝えている。	プライバシーに関わる場所としてのトイレや風呂への誘導の際には一人ひとり、気分を害されないように声掛けをそっと行い、促している。職員は入居者を人生の大先輩であると認識し、適した声掛け、目線を維持できるように研修を行っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がとった行動、言動に対してスタッフはすぐに口をはさむのではなく、さりげなく見守ってあげる大切さをスタッフに伝えている。本人の思いは当然重視している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームとしてコミュニケーションを重視している。職員本位でなく、常に利用者様本位が大切であることを指導しながら日々の業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回の訪問カットの利用や馴染みの美容院にいていただいている。スタッフが考えたエステの利用もしていただいている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り利用者様に食事の準備、手伝いをしていただいている。配膳、下膳にも協力していただき、昔の力を存分に発揮していただいている。	食事の準備は入居者にも参加してもらい、家事も楽しめるようにしている。食事以外にもイベントの時には手作りのおやつを作ることもあり、一緒に楽しめる時間も持っている。希望される方には個別に外食する機会を持ち、いつもと違う空気を感じてもらおうようにしている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三測表、連絡帳、申し送り、日々の様子などから情報収集を確実に行い、的確な判断で1日、1日の状態に応じた対応をとっている。水分摂取には十分気をつけている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っている。場合によっては拒否される方もいらっしゃるが、そういった時は無理はしない。本人が出来ない方にはスタッフが支援させていただき、本人にかわって口内状況を確認しながら口腔ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	月のモニタリングにて徹底的に排泄の確認をさせていただいている。オムツ、リハパン、パットの必要性、パット大中小の使い分け、どこまで排泄支援に関わってよいかなどについて話をしている。	トイレ誘導は入居者個々のタイミングを見ながら行い、できる限り、トイレでの排泄ができるように支援している。オムツだった方もリハパンツを使用できるようになったり、気持ちよく排泄を行ってもらえるように、職員全員で支援している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	三測表を活用しながら便の間隔を常に確認している。状況によりナース、ドクターとの連携も確実におこなっている。ヤクルトさんの活用、運動としてはテレビ体操を可能な限りおこなっている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴間隔は決めさせていただいているが、絶対はなく、御利用者様の入浴訴えがあれば優先して入浴を楽しんでいただいている。スタッフには常に訴えに柔軟に対応する心構えをもってもらうようにしている。	風呂は毎日入浴できるように準備し、入居者は週に2回は入っていただくようになっている。拒否される方もいるが、声掛けの時間や担当者を変えるなどして入浴してもらえるようになった。男性職員が多い職場であるが、同性での対応ができるように職員の配置も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様本位で生活していただいている。ただ生活リズムバランスも考慮しての干渉も若干あり。基本的には日中活動していただき、夜は安眠していただけるような環境を作るよう工夫している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬処方後のお薬情報は、毎回更新している。お薬変更時は、連絡帳を通して確実にスタッフに周知できるよう努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からされていた習字、梅ジュース作り、食事盛り付けなどをレクリエーションの一貫として取り入れている。気分転換には足湯、ドライブ、買い物などの取組も行っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望もあり、毎週月、水、金曜日の早朝からグランドゴルフに出かけられている。スタッフは毎回家族様が迎えにこられるまえに事前準備を徹底している。家族様は毎回送り迎えをしてくださる。家族との連携を大切にしている。	入居者全員で外出することは難しくなってきたが、少人数で食事に行ったり、お花見や足湯、初詣で行ったりしている。入居者の中に早朝からの外出を希望する方がいた。今までの生活を継続したいというご希望であったので、職員で検討し、対応した。できるだけ、個々の希望はできるように支援している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をできる方には遠慮なく管理していただいている。家族様との確認のもとでの実施でもあるが、お金を管理することによる生きがいを常に持ち続けていただけるよう支援している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい訴えの多い、利用者様の家族様には事前に状況をお伝えして、ある程度の電話連絡に対しては了解を得ている。利用者様の中には、携帯電話を持っていらっしゃる方もいる。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気分転換の座席の配置換え、明暗調整、温度調整、喚起、音の調整など工夫をしています。できるかぎりご自宅で過ごしているような思いになっていただけるよう取り組んでいる。	外にはウッドデッキ、施設内には掘りごたつができる小上がりを備えており、日常から少しでも離れられる場所も準備している。ウッドデッキは外の空気を感ずることもできる場として、気分転換には大変良い場所である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階、2階には小上がりがあり、昔ながらの畳室の掘りごたつとなっていて、自由に利用可能となっている。2階廊下には対面ソファがあり、利用者様同士が向かいあって会話されているところもよく見かける。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用されていたなじみの物をできるかぎり居室の模様として持ってきていただいている。利用者様とご家族様が話しをしながら模様替えをしている場面も見かける。	各居室のクーラー・カーテン・ベットはホームで準備しているが、それ以外のものは入居者個人で準備をしてもらい、好きなものを置いていただいている。タンスや電気毛布等、様々なものを置いていただいても問題はないが、火災等、事故の要因になるものだけ、お断りさせていただいている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はこじんまりしている。1階、2階は間取りもほとんど変わりなく、出来る限り混乱のおこりづらい構造となっている。1階2階間の異動、部屋、座席などの変更も極力行わない取組を行っている。		